LORDSBURG TIMES
—230—
MAY-22-43

ローズバーグ日本人收容所
ローズバーグ時報
知事局・五月二十二日土曜日

日本聯合艦隊司令長官 山本五十六海軍大將戰死

U.P.電は、日本聯合艦隊司令長官山本五十六海軍大將の戰死を報じた。後任として古賀峯一海軍大將が親補されたといふ。

米国海軍太平洋作戰 いよ〳〵対日攻勢を始む

眞珠湾A.P.発信は、米国海軍は愈々南北太平洋に攻勢を取り、北は、アッツ島より南はソロモン、中央はギルバート群島、ナウル及びタラワよりウエーキ島を同時に、海軍及空軍にて爆撃を始めたと発表した。

アッツ島は十二日目の防戰尚續く。

大統領の親書捧呈

ロ大統領特使デービスは昨夜その親書をスターリンに致したが、クレムリン宮殿に於て、之を飜譯し、今朝スターリンは一讀した。内容は公表されないが、スターリンの印象は好轉するものゝ如しとモスコー今朝のA.P.は報じた。

ルイスも華府へ出現

AFL.に復歸の意を表明したるルイスは今朝又、華府へ出現した。

右はW.L.B.とイッケスと法理的權限問題に関し、法曹家の意見を纏めん為延の裁断を受ける為であらうと評されてゐる。

檢事總長日本人を求む

ダイス委員会員トーマスは大統領に次の懇請すると共に、その報告を併せ発表した。

一、此際日本人リリースを大統領權にて差し止めて貰ひたい。

二、米国檢事總長ビッドル從妹ミス ビッドルに依頼であるが、家庭働きに經驗ある日本人を一名雇ふ度いといふので、ヒラリバーセンター所長に依頼した。仕事は、料理係並に家庭働きにて、食料附き月給八拾弗。

両巨頭會談は大成功

華府(廿日U.P.電)ローズヴエルト大統領とチャーチル英首相との会談は愈々最終の決定に近付いたらしい。記者團を引見した大統領に依ると、英・米両巨頭の会談を、両国参謀部員も全幅的に支持して居るし、戰場目的も決定的である。会談は、次週迄續くが今回の会談は非常な成功であると、ロ大統領は上機嫌で語つた。

二百年前のアッツ島戰闘

(華府国際電)太平洋に於ける、日米大決戰場中心となり目下世界の視聴を集めてゐるアッツ島は、今より二百年前にも戰闘が行はれた。當時、露国の毛皮商人隊と土酋の間に猛闘が行はれ、遂に土酋は女・子供に至る迄、露人に撲殺された。之は一千七百四十五年の事である。同島南部マサカー湾の海岸では米国探検隊も戰つた事がある。

豆ニュース

△ダイス委員会は、各地センター同胞の「ロ日本の理由は、市民協会、兵務局会、縣人会、国語学校、神道教会各派を数へてゐるが、市民協会を筆頭にしてゐる処に調査の權威如何を窺ふ事が出来る。

△米国の炭坑は、一八九九年以来、少く共、毎年一度のストライキがあつた。

△濠洲メルボルンで、メード・イン・ジャパンの靴下を知らずに買つた男が憤慨、友人数名を連れて其店に乗り込み、残つてゐた十八足を店頭で焼捨てた。

△ガダルカナルに残つた日本兵は大抵六吠以上あつたと、米軍は驚いてゐる。民族に分へられた試練に違ひ無いが我々日本人の一人々々に分へられたものと見る可だ。如何となれば、民族といふ言葉には責任が明かにされて居ないからである。

○カイザーの新事業

造船で一躍米国の大事業家と成つた西海岸の淡水港ポートランドのヘンリー・カイザーは、戰後に於ける、トレーンの新附属品製造に從事すると去る廿日発表した。

○佛教礼拝
明日曜日、夕七時半
才十中隊・食堂

勤行十二礼 導師 藤永覚眠師
説教 ブロー氏佛教、竹間隆英師

○基督教礼拝
司會 祝部牧師
説教 出発矣の所要 渡部牧師
明日曜日午前九時
才十中隊社交室

○時事解説
講師 大石兵六氏
明日曜日・午後一時半
才二大隊宗教堂 教師聯盟主催

〈寄附〉知事局へ(才三大隊)
三弗 上田喜三郎氏、二弗 大井松之助氏
二弗 相良嘉吉氏、一弗 匿名時繁太郎氏

○才二大隊知事局へ
一弗 三拾五仙 鳥越文吉氏

○才二大隊放送部へ
一弗 上田喜三郎氏

◎ローズバーグ俳壇 第回課題
(雲の峯。涼み。)三十一日〆切、本社宛

野球リーグ戰先週の戰績
十中隊(勝) 十五矣対八矣 六中隊
十二中隊(勝) 十一矣対十矣 五中隊
十一中隊(勝) 十一矣対五矣 九中隊

野球リーグ戰日程
今廿二日(土) 午後五時半 五中隊—六中隊
明廿三(日) 午後一時半 九中隊—十二中隊
午後五時半 十中隊—十一中隊

デビース大使の成功は奇蹟的

華府方面消息通の信じて居る所では今回、ローズヴェルト大統領の親書を携へてスターリン口説役として露都モスコーに赴いたデビース大使がその使命成功し、ロ大統領とスターリンが膝を交へて相談する事が実現したら、デビース大使は奇蹟的仕事師である。

スターリンの本心は、ロ大統領と会談するよりは寧ろ、チョンルイスと戰時労働問題を懇談する方により以上の秋波を見せて居る。……否、之は双方共に同じ考へを持つて居ると見て差支へ無い。

若し、スターリンが、ロ大統領と会談して見た所で、佛蘭西から第二攻戰線を開けと強要するに対し、一方はそれを聞き得なかつた今日迄の理由を説明する外交上の駄引きに終始し会談数時間後には氣不味いものとなろう。数週間前にも、駐露米国大使スタンドレーがクイビレヴからモスコーに乗り込み、ロ大統領の招待を懇談せんとしたが、当のスターリンは冷やかな態度で面会しなかつた……仕方無しに、又大使はモトロフ外相に其使命を傳へたのであつた。

老獪なモ外相は……スターリンは戰争の方が大多忙だと挨拶をした。

斯うした經緯の間に乗り込んだデビース大使が、白堊館の希望を実現し得るとしたらそれは奇蹟的成功と見てよい。

茲に注目される事は、昨年、我米国の最上層部の人がスターリンに会つた時、米国は直に、佛蘭西から第二戰線を開く旨を話すと、彼は、若し英国が貴国(米国)を援助したらと彼はつけ加へた。

彼スターリンは第二戰線をバルカン方面から開始する事に興味を持たない。

スターリンは英佛海峡方面から第二攻戰線を開始する事以外には考へて居ないからである。(メリーゴーラウンド)

誤れる祖先 (十六)

日系市民は米国式

暫くすると一世の役者が、衣冠束帯で威儀正しく舞台に現はれた時に、日頃、ファニー・ペーパーを見てゐる子供の一人は、キーキー声で「蝙蝠のやうな人間が出て来た」と叫んだ。スクール・チルドレンが運動場で時々飽きたラフになると彼等の用語の最悪な言葉即ち「コー・ダチー、ジャップ!!」と罵る大声を聞くことがある。

ミニドカ・センターの小学校女教師の一人、グラディス・ギルバートソンは、『是等の子供は、私が今迄教へた如何なる子供よりも、米化に関する課目を教へる必要が無い者である。彼等は米国主義は何を意味するものかを実によく知つて居る。彼等は今日迄此米国主義の許に育てられて来たのである。然るに、彼等は、米国の教育の根幹となつてゐる自由を彼等から蹂躙されて仕舞つたのである。然し彼等は、此自由を彼等の物として回復する時には自由を有する米国市民たる誇りを傷けざる様、日夜戰ひ続けるであらう。』

最近小学校六年級の教師は教室に国旗を掲げる事を望んでゐたが、遂に其日が来た。先生が、ターペーパーで出来たバラックの、何の装飾も無い教室に米国々旗を掲げた時に生徒一同は之を見るや期せずして一同起立、国旗に向つて、サリュートした。

ハイスクール、各級に亘る線数は、一千三百二十名で、央華両廿五十六のハイスクールから集つた者である。

ハイスクールから集つた者ト、ガールスカウト、ガール・レザーブ及びハイウイ倶楽部等があるため、寄合世帯の不自然な空気が法外に改善されつゝある。

是等、若い生徒達は教師に向つて――

我等が戰つてゐる敵はジャップです。然し我等は日系市民です!!!

外部にある一般は、センターに居る者……殊に日系市民が自由を奪はれてゐる事を如何に憤慨して居るかに関し其実状を知りたいのである。

如何となれば、日之等日系市民は戰後に於て、発言権を有する者であるからである。

日米開戰の第二年に於て、ハイスクール上級生が、次の如き事を話つて居るのは、彼等の態度が如何なるものであるかをよく判る。

一人の学生は、十二月七日を思ひ起して左の如く語つた――

「教会からホームへ帰つた後私は、レヂオで小さいニュースを聞いた。それに依ると、或数の外国飛行機が、パール・ハーバーを攻撃した。而してそれ等の飛行機は日本空軍であると報じたが、私は是を聞いた時にそれを信ずる事は出来なかつた。

第二大隊便り

○文化講演
『造園とそのテクニック』 講師 石山寅三氏
今週土曜日、午後七時半
宗教堂にて、 主催 講演部

○曹洞宗禪学会
『修證義講義』 吉住浩厳師
明、日曜日、午前九時
第五中隊、社交室

○浄土宗聖典……研究
明、日曜日、午前九時
第六中隊食堂

○聯合日曜礼拝
明、日曜日午後七時
説教 藤谷晃道師

第三大隊文化講座第四週日程 十一中隊食堂

以上午前八時半

月 29日	和歌解説	矢崎天洋氏
火 29	熱帯植物概論	西崎左八氏
水 26	常識園芸講話	石山寅三氏
木 29	茶根譚講義	三明文学士
金 28	川柳に就いて	安武雀喜氏
土 29	漢詩に就き	影山子畔氏

連続講談、浦中氏、日、月、水、金、夕七時、十二中社交

社交ダンス、春原氏、火、木、土、 夕七時ダンスホール

交の部。
金曜日午後七時
地政学第廿四講
毛利医学博士

英語夜学校
渡辺先生組
中林先生組
前週通り